

Q1

GX形管と既設管の接続方法 について教えてください

Answer

既設ダクタイル鉄管を切断することが可能な場合は、表1に示す方法で接続ができます。なお、図中の継ぎ輪は両受短管でも同様に接続可能です(異形管との接続は両受短管のみ可能です)。

表1 既設管を切断する場合の接続方法

(1) 既設を切断し、GX形直管受口を接合する場合 ^{1), 2)}
(2) 既設を切断し、GX形直管挿し口を接合する場合 ^{1), 2)}
(3) 既設を切断し、GX形異形管受口を接合する場合 ^{1), 2)}
(4) 既設を切断し、GX形異形管挿し口を接合する場合 ^{1), 2)}

注1) 切管ユニット (P-Link, G-Link) を使用しない場合には、既設管切断部にGX形切管用挿し口リングを取り付け、GX形直管受口あるいはGX形異形管受口と接続する。この場合、既設管の管種は1種管である必要がある。呼び径350~450については、切管ユニット (P-Link, G-Link) が存在しないため、必ず切管用挿し口リングを用いた接続方法となる。
 注2) 呼び径350~450において、既設管切断部に継ぎ輪を接続される場合には、GX形切管用挿し口リング(継ぎ輪接合用)を用いる場合に限り、1種管以外との接続が可能である。

既設管がNS形呼び径75~250の場合は、NS形の挿し口形状がGX形と異なるため、直接接合することはできません。そのため、図1に示すように既設管とGX形管の間にNS形切管などを組み

合わせて接合します。

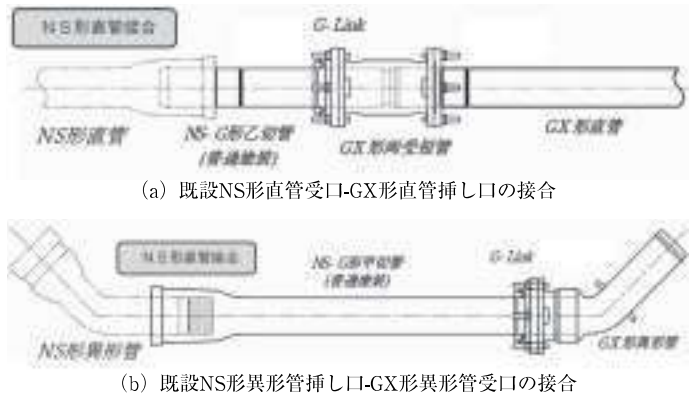


図1 呼び径75~250 既設NS形とGX形の接合

NS形呼び径300~450の場合、両者の挿し口形状は同じであるため、直接接合することが可能です。ただし、既設NS异形管挿し口とGX异形管受口の接合では、异形管の形状・寸法(L2寸法等)が異なるため、組み合わせによっては接合に必要な隙間を確保することができないため接合はできません。詳細については各メーカーにお問い合わせください。

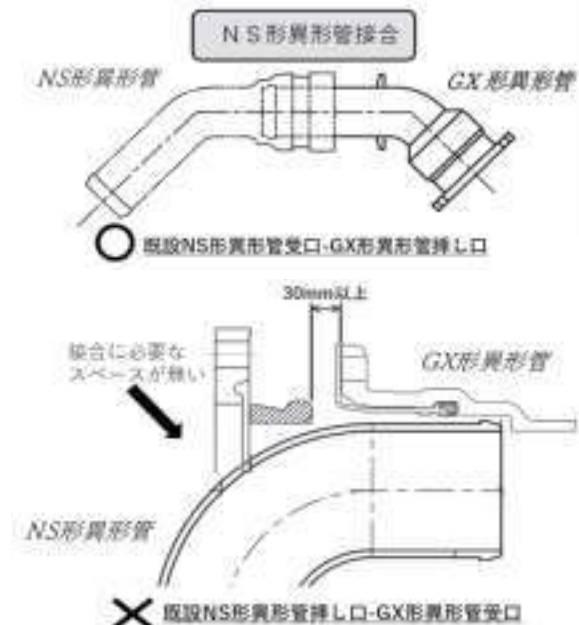


図2 NS形异形管とGX形异形管の接合

その他の既設ダクタイル鉄管との接合方法例については、日本ダクタイル鉄管協会が公開している資料(「T57 GX形ダクタイル鉄管管路の設計」)をご参照ください。

(出典:水道技術ジャーナル2021年10月)